

主体的に思考・判断する力を育む放送学習

千代田区立和泉小学校 主任教諭 竹下 佳余

小学校3年 特別活動 スマホ・リアル・ストーリー

番組の特徴（1単位授業時間）

スマホを持つ小学生のリアルな体験を伝える番組である。スマホが誘うネット社会は、広く豊かな世界であり、多くの危険が潜む世界でもある。入門期の子どもたちと活用の仕方を共に考える番組である。

研究の概要

物事を考えたり、正しく判断したりするには、根拠となる知識を幅広く得ることが不可欠である。そこで、番組活用を通して、既習の知識と自己の経験を関連付けて物事を捉えたり、経験の不足を補ったりすれば、実感の伴った理解につながり、主体的に思考・判断する子どもが育つと考えた。実践を通して、自分とのかかわりで考え、どうすべきか具体的なイメージをもつことができた。

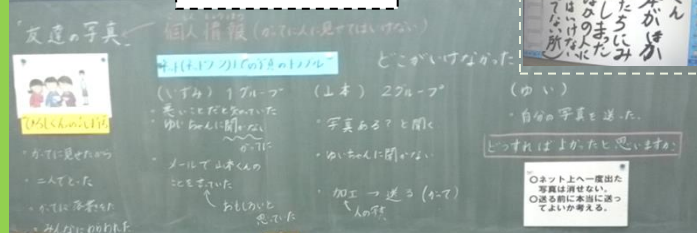
授業デザイン

単元：友達の写真～よりよい仲間関係を築く～
目標：ネット上に一度出た画像は取り消せないことを理解し、個人情報をきちんと管理できるようにする。

導入	事例①「SNS 東京ノート」落書きをされた写真をみんなに公表されたひろしくんの気持ちを考える。
課題把握	ネット上での写真（個人情報）トラブルについて考えよう。
番組視聴	「送った写真のゆくえは…」
協働解決	「いずみ」「山本」「ゆい」のそれぞれの行動でいけないと思った点について話し合う。 ・許可を取らずに写真を山本に送った。 ・写真を勝手にネット上に送った。
自力解決	トラブルを防ぐためにはどうすればよいか考える。
まとめ	ネット上の拡散の仕組みと、写真（個人情報）の取扱について注意することを確認する。

家庭学習

SNS 家族ルールづくり



番組や関連動画クリップの活用意図

自分との関わりで考えるための番組視聴

- ・ネット上に写真を送ることで起こるトラブルの現状を知る。
- ・自分自身にも起こりうることとして、トラブルの回避策を考える。

要点を強調する場面（チャプター活用）

- ・scene 7で「一つのグループにしか送っていない写真」が大勢の人に広がっていく様子を再提示←ネット上のトラブルの恐ろしさを強調

思考の可視化にかかわる教師の工夫

SNS 東京ノートとの連携

写真のトラブルで傷ついたひろしくんの気持ちに共感し、SNS ルールの大切さを理解する。

小集団での話し合い活動 ペアトークで、それぞれの行動も問題点を話し合う。→発表ノート（タブレット）で互いの考えを共有する。

家庭との連携・保護者会での活用

- ・学校で決めた SNS ルールを家庭に持ち帰り、それぞれの家庭の実情に合ったルールについて話し合う（冬休みの課題）。
- ・保護者会の流れ（11 学級中、6 学級番組視聴）
 - ①小グループトーク（テーマリストの活用）
 - ②一番話題になったことを交流→関心の高かったテーマの番組を視聴（例えば「ネットはずし」「課金」）→保護者の声（文字）

★本校の情報モラル学習の課題が浮き彫りになった。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの意見

- 相手の気持ちになって考え、自分ならどうしたらよいか考えることができた。

評価シートから

- 「自分の考えを発表することが苦手」と感じている子どもが多い中、「他の人の考えに対して意見を言うことができる」と自己を評価する子どもが増えた。

同僚・保護者の声

- 話題を共有したり、トラブルの現状を把握したりしやすい。
- まだ先のことだと思っていたが、テレビを拝見したりして、そろそろ現実的に話していかなくてははいけないと感じた。（保護者）

実践を終えて

「放送番組を使った学習は分かりやすい（4月当初）」という多くの子どもの意見から、状況把握や根拠となる知識の獲得が難しい場面で、放送を活用した。本実践のように、写真を加工して公開した経験がほとんどない場合でも、トラブルの原因を捉え、改善点を見出すことができた。道徳も同様に自分とのかかわりで考える力が育った。教科学習の中でも、KWL シートを活用し、具体的な根拠を基に思考する力の育成を模索中である。